紺　碧

調布稲門会　会報
2013.6　No. 38号
事務局　調布市若葉町 2-22-10
元木 勇 気付
Tel　03-3300-4554
Fax　03-3300-8728
編集責任者　吉田　忠洋

総会報告

吉田　忠洋

第32回調布稲門会総会が、2013年5月26日(日)の午後2時より、調布市文化会館たづくり12階の大会議場にて開催されました。出席者は、来賓者も含めて、70名余りでした。

司会の堀内正之幹事の開会の辞に続いて、5名の物故者、福井浅子氏（2012.9 ご逝去）、元木茂孝氏（2012.11 ご逝去）、藤山吉和（2012.12 ご逝去）、高橋敏之氏（2012.12 ご逝去）、市園敏郎氏（2013.3 ご逝去）諸氏に哀悼の意を示すため黙祷を捧げました。

続いて、元木勇会長の挨拶では、現在215名の会員数を250名にするために、会員増強活動に力を入れていく旨、また、現在10ある同好会の数をさらに増やしたい旨の2点が特に強調されました。そして、過去23回にわたって参加を続けている調布市福祉バザー（今年は2013年12月8日開催予定）への積極的な参加の呼びかけが行われました。

その後、今年度の議事に入り、安松董矩副会長が議長に選任され、第1号から第6号議案までが順調に承認されました。今年は、例年と大きく異なる点として、調布稲門会会則が一部改定になりましたが、無事承認されました（紙面の都合上、今号に会則の全文を載せることができませんでしたが、当日総会に参加できなかった方でもし必要な方がいましたら、元木会長をはじめ、お近くの幹事の方にお尋ねください）。

続いて、新入会員の紹介が行われ、新たに6名が新規に入会されたことが報告され、そのうち今回総会に参加された2名の新入会員、芦沢友雄氏と石田欣也氏より挨拶がありました。

その後、ご来賓の紹介では、多摩南部地区の稲門

会ならびに調布市内の他大学の校友会からの列席者が紹介されました。ご来賓の中から、早稲田大学・教務部地域担当副部長の小野章様、慶應義塾大学・調布三田会会長の寺川毅様よりご挨拶をいただきました。

続く第二部では、元日本経済新聞社副社長の牧久様より、「私とベトナム戦争」と題した講演をしていただきました（第二部の様子は、別途掲載しているため、ここでは割愛します）。

そして、第三部の懇親会は、例年どおり、涌田みちる副幹事長と天野凡子幹事の息のあった司会で始まりました。中央大学・学員会調布支部支部長の佐々木国夫様に乾杯の音頭をとっていただいた後、長友貴樹調布市長からもご挨拶をいただきました。

その後、余興へと移りましたが、今年は、現役早大生の学生サークル「踊り侍」によるパフォーマンス「よさこい踊り」が披露され、会場はおおいに盛り上がりました（表紙の写真がその様子です）。続いて、演歌歌手の水木るみさん（キングレコード所属）による歌の披露もあり、こちらも盛り上がりました。

最後に、各同好会のリーダーによる同好会活動の紹介の後、恒例の秋沢淳雄幹事による指揮の下、早稲田大学校歌「都の西北」を全員で斉唱し、閉会となりました（校歌斉唱および乾杯の模様は下記写真のとおりです）。

講演概要　講演者　日経新聞元副社長　牧　久氏
「私とベトナム戦争」

柵木　真也

ベトナム特派員としてサイゴンに赴任しろと１９７５年３月１日付で辞令をもらった。ベトナム戦争は終了しており、ベ平連も７３年に解散していた。先輩には「戦争は終わったから遊んでこい。ゴルフ

でもうまくなってこいよ」と送り出された。だれも、もうアメリカがベトナムに帰ってきて、戦争することはないと考えていた。７５年のサイゴン陥落とは何だったのか。

７５年の３月１０日にホーチミン作戦が指示されていた。後で調べてみると、同年１月に北ベトナムはハノイで重要な会議を開き、２年間で完全に南ベトナムを制圧し、軍事解放すると決めていた。特派員は知る由もなかった。１９個師団の人民解放軍があったが、ハノイの護衛のために１個師団だけ残し、あとの１８個師団は総力で南下してサイゴンを陥落させると決めていた。ヴォー・グエン・ザップ総司令官の言葉、「迅速に、ただひたすら迅速に、大胆にひたすら大胆に、一刻一秒を争え、時は力だ」ということで命令を下した。

その作戦が実行されたのが３月１０日だった。お茶、コーヒーの産地でカンボジアに近い中部高原のバルメトートに大変な戦車部隊が押し寄せてきた。南ベトナムはもちこたえられると発表したが、助手を使ってバルメトートの政府機関に電話を入れさせたが、全く通じない。「バルメトート陥落か」という原稿を送った。一気に北ベトナムが南下してきた。ベトナムの地図を壁に貼ったが、４月に入るとまっかっかになり、あとはサイゴン周辺６０キロ圏ぐらいになった。南ベトナムは戦略的撤退と言ったが、戦略的撤退でも何でもなくて、政府軍が押さえているのは幹線道路周辺の「線」だけで、「面」は解放戦線の指揮下にあった。４月３０日には政府軍の兵士は戦車も、銃器も、制服も脱ぎ捨てて、一般市民になって逃げ出した。無血開城。完全にサイゴンは陥落した。

邦人は各企業に３００人、新聞記者が３０００人ぐらい残っていた。日本政府は救援機を出すと言ったが、わずか５０日間で落ちるとは分かっておらず、飛行機はマニラまで来て、サイゴンには入ってこられなかった。そこで、ベトナムの革命を目撃することになった。

記者は原稿を一切送れなくなった。原稿を送られると困るからで、取材したって送れない。取材は勝手にやりなさい、原稿を送るのは認めませんよ、ということだった。ちょうど１０日ぐらい経って、向こうも知らせないといけないことが出てくると、送稿をＯＫします。ベトナム語かフランス語か英語で書いて臨時革命政府に出しなさい。臨時革命政府はハノイの外務省に送って、ハノイから一般電報で送ることになった。サイゴン、ハノイで読まれて合格したものを西側世界に発信するというシステムを作った。都合の悪いことは一切書けない。

その後、外に出るための飛行機を出しますよ、ということで、各国の記者も今まで撮った映像を送りたいから、それに乗る。第１便に報道陣の９割が乗り、２便を含めると、ほとんど乗った。残ったのは１０数人だった。報道陣を出してしまうと、月に１回か２回、バンコクにエアベトナムの飛行機が飛ぶことになった。外に出たい人はそれで出てくださいと、乗る人が指定され、外務省の前にリストが張り出された。ＡＰの記者は「おれは出ないよ」と拒否したが、朝、支局に兵隊が迎えに来て、丁寧に両脇を抱えられ、ジープに乗せられ、飛行機に乗せていただく、という親切なやり方をされた。

日本人記者で最後に残ったのは、私と共同通信、ＮＨＫ、読売だった。あとは１、２カ月の間に出た。私は旧体制に知っている人がいなかったので、これなら安心だろう、ということで最後まで残された。

フランス語はできないし、英語もそんなにできないし、ベトナム語も原稿をかける状況ではない。日本語で書いた原稿をどうやって持ち出すか。飛行機に乗る人に日本語の原稿を預ける。外務省の前に今度の便に乗る人のリストが出るので、信用できそうな人の所に前夜、密かに行って、バンコクに着いたら日経の支局があるので、この電話に連絡してください、必ず支局長が取りにうかがいますから、と原稿を送る体制を作った。あとで調べてみると、全部届いていた。

日本の新聞はサイゴンには全く入ってこなかった。ただ、ハノイには一部ずつ届いており、ハノイはわれわれの原稿を読んでいた。その後、外務省に呼び出され、出てくださいと命令された。「それは命令ですか、理由は何ですか」と聞いたら、これは命令ではありません、「カインドリー・サジェスチョン」です。親切を受けないと、飛行機まで乗っけてあげますよ、と。理由は「カウンター・レボーリョーション」の一言だった。

日経に載った原稿は大変評判が悪かった。各紙は、各雑誌も含め、ようやく一つの国になった、平和の時代が訪れたというトーンだが、お前の原稿は、混乱だけを書いているということだった。うそは書いていないが、当時の日本のマスコミの状況からすると受け入れられなかった。

日経の役員を辞めてから、ベトナム革命の中から送った原稿をもう１回記録にとどめたいということで、「サイゴンの火焔樹―もうひとつのベトナム戦争」を出した。革命とはどういうものか。中国では文革があったが、一つは思想改良教育だ。旧体制に協力した人を呼び出して教育する。ジャングルに連れて行かれるが、収容所そのもの、刑務所と同じだ。私の助手は１週間ということで行ったが、私が退去になって、６カ月経っても帰ってこなかった。そうしたことが問題になり、政府が何と答えたか。１週間で返すとは一言も書いていない。「１週間の食料を持って」としか書いていないじゃないか。頭のいいやり方だと思う。ポル・ポトは皆殺しにするが、ベトナムはそんな残酷なことはしない。ホーチミンの思想、共産主義とは何かを教え、それで反省しないとだんだん長くなり、自分で火を作って、自分の食べるものは自分で作れ。鍬と種籾ぐらいは渡すということだった。

企業にとっては国有化だ。反対すると買弁資本家、反動的ブルジョワジーと烙印を押されて、財産を全部没収される。市民が蜂起し、金持ちの家を襲い、全部没収していくということが起こった。

もうひとつは新経済区建設だ。サイゴンには３００万人いたが、食べていけない。食べていけない人は、土地は少しあげるから、百姓をしなさい。ジャングルを切り拓き自分で食べるものは自分で作りなさい、ということだ。それでサイゴンから１５０万人を追い出す。新経済区建設と、言葉は前向きだが、中国がやった下放政策だ。また、各地で起こったのが人民裁判。各地の運動場に人が集まって、罪を犯した人が呼び出され、三角帽を被せられた。

決定的だったのが通貨の切り替え。南ベトナムが発行していたピアストルを新しいドンに切り替える。上限は１家族当たり１０万ピアストル(当時の約４万円)、中小企業、商店は１社１０万ピアストル、大企業は５０万ピアストルだった。あとのお金は全部銀行に預けなさい。全部没収される。革命のすごさとは何か。いわゆる平等にするには、これが最も手っ取り早い方法だ。

そういう中で、７６年４月には北ベトナムが南ベトナム臨時革命政府を吸収し、ベトナム民主共和国がベトナム社会主義共和国となった。それから２０年間、ドイモイ政策で市場経済が入るまで、そういう中での生活が続いた。

裏切られた革命、この国に失望した人々が見切りをつけて、ボートピープルとして逃げ出した。私の助手もサイゴン陥落から８年後にボートピープルとなって、奥さんと子供２人がいたが、奥さんが男の子を、助手が女の子を引き取って、死ぬ覚悟で逃げ出した。今、ブリスベーンにいる。あそこで行われたことをベトナム語でも、英語でも伝えられない。彼は画家になり、船に乗って逃げ出したことを描き続けている。ブリスベーンのボートピープルの画家

として大変有名になっている。

落合茂さんは１９４０年、日本軍兵士としてハノイに行ったが、戦後残って、ベトナム語も勉強し、最終的に東京銀行に就職した。この人の戦後は何だったのか。その人たちの物語も書いた。

去年は「『安南王国』の夢ーベトナム独立を支援した日本人」を書いた。ベトナム独立を支援した日本人がいた。犬養毅であり、私たちの大先輩、大隈重信だ。そういう人たちがいたことを記録として残していかないといけない。（テープ起こし　柵木真也）

我らの同好会活動のコーナー

「語ろうアースカフェ」
（マシフラさんのウズベキスタン　シルクロードの十字路から　全6回）

山田　和子

本年度より始まるサークル活動です。調布市近辺には、電気通信大学、東京外国語大学などに在学中の多くの海外からの留学生達がいます。彼らに母国の歴史、文化、政治、経済などを語ってもらい、世界各国の理解を深めて行き、また彼らとのコミュニケーションを図り、支援していく活動です。サークル名を「語ろうアースカフェ」としました。

一年を通じて一か国を学んでいきます。年５～6回の講座を予定しています。国の将来を担って行く若い彼らとの語らいは楽しみです。学んで知識を得た国に、皆で旅行にいくのも一案かと考えております。

本年度はウズベキスタンです。国費留学生として東京外国語大学大学院博士課程在籍のマシフラさんに講座担当をお願いしました。3 歳半の男の子と共に来日し、子育てしながら頑張っている女性です。

講座概要は下記の通りです。

講座名：　マシフラさんのウズベキスタン　シルクロードの十字路から　全６回

内容：　第１回　ウズベキスタンの概況

第２回　観光地の紹介「心のオアシス　サマルカンド、ブハラとヒバ」

第３回　行事・伝統　「ウズベク風炊き込みご飯オシュ」

第４回　ウズベキスタンの特徴　「地域共同体・マハッラ」

第５回　ウズベキスタンの歴史と現状「光と影」

第６回　ウズベキスタンの経済　「一次産業主体からの脱皮」

日程：　2013 年 10 月から隔月第一月曜日午後2時～4時（第６回は翌月）

（2013 年）１０/７、１２/２、（2014 年）２/３、４/７、６/２、７/７

会場：　たづくり（学習室又は研修室）

費用：　6,000 円（全６回分）

担当者：　野村大也、山田和子

問い合わせ及び資料請求先：　山田和子

TEL：　０４２－４８８－０７４１

MAIL：　kazuko.yamada@jcom.home.ne.jp

（尚、７/１８～７/２４の問い合わせはご遠慮下さい。）

当会に入会し、一緒に活動して行きませんか？皆様のご参加を心待ちにしております。

「食・歩会＆ワンゲル同好会」共催
浮世絵鑑賞と摺り実演の見学会

石倉　毅

平成25年2月9日JR目白駅９：４０分、参加予定者全員(３０人)が揃い本日の行事がスタートした。目的地の新宿区下落合３丁目の「アダチ版画研究所」までは歩いて約15分、閑静な住宅街に建つ当研究所の建物は周囲と調和のとれた落ち着いたもの。中に入るとゲストルームの壁には数多くの浮世絵版画が展示されており、著名な作品のほか当研究所が育成中の技術者の作品も展示されていた。

今回の見学会は「浮世絵鑑賞と摺り実演」担当職員の解説で若い女性研修者による摺りの実演が始まった。モデルは葛飾北斎の富岳三十六景のコピー版、色の濃淡は版木に乗せた絵具に「適宜に水で調整」する。ここは摺り師のカンのみが全て、流れる様な手さばきで作業が進む。我々見学者は只々息を詰めて見守るのみ。版木は５～６枚使用したと思われるが完成品は全く乱れが無い（と見てとれた)。

浮世絵は肉筆画と版画があり、江戸時代前期に誕生したと云われている。絵のテーマは美人画、役者絵、風景・花鳥画等々町人の現世的（浮世）生活感情を表現した作品が輩出された。肉筆画でスタートしたがその後の需要に応じ、木版画に発展し隆盛を極めた。明治以後に衰退したが、ゴッホはじめ洋の東西を問わず「多くの画家にインパクトを与えた」と云われている。

版画の特徴は、企画担当の版元の総合監修のもと、絵師、彫り師、摺り師のチームワークにより制作される点が他の絵画と大きく異なる。各職人が一流の技量・センスを有することが絶対条件である。

我が国古来からの固有の美術・工芸品や生活用具・様式等に秘められたセンス、アイデア、技量など世界に誇れるフィールドが多々あることを改めて知らされ意を強くした。

この度の同好会行事の立案、検討、予約、等々全てを食・歩会幹事の山田和子さんが担当され、我々ワンゲル同好会はこのプランに便乗させて頂きました（山田さんお世話様でした)。

年会費は７月末までにお忘れなく

会計担当　石井　宏和

役目柄とは云え会費の話ばかりで申し訳ありません。

ご存知の通り我々調布稲門会にとって会費収入は唯一の活動源です。

これが減少しますと今までの活動範囲すら維持できません。活発に活動範囲を拡げ、組織の活性化を図るには新しい友人・会員の手助けを必要としています。

会員相互の親睦・交流は勿論、こんな社会貢献に活動範囲を拡げたら等々、ご意見をどんどんぶつけて下さい。今までなんとなく仲間に入りにくかった既会員の方も思い切って飛び込んで会の活性化に一役かって下さい。

メールやFAXで皆様のご意見、ご質問を気軽にぶつけられる窓口の開設も現在検討中です。

会員の皆様も周りを見渡して未加入の交友がおられました是非お声がけの程お願いいたします。

今回の調布稲門会会則の改正により、年会費の納入期限が７月末日までと定められました。未だ平成２５年度年会費をお支払いただいていない会員の方、同封の郵便局払込取扱票により期日までにお払込いただきますようご配慮のほど宜しくお願い申し上げます。

（各同好会の代表者と連絡先）

囲碁・将棋：	大谷 暢廣	042-481-0202
	早川 政夫	042-487-9610
カラオケ：	小笠原 忠八郎	042-481-6867
硬式テニス：	山本 健治	042-482-6049
	中村 輝夫	042-485-1217
ゴルフ：	安松 菫矩	042-488-5726
フラダンス：	大谷 裕子	042-485-7489
社交ダンス：	元木 勇	03-3300-4554
太極拳：	中野 完二	042-485-0523
麻雀：	濁川 寿次	042-483-6966
ワンゲル：	石倉 毅	042-487-4750
	天野 凡子	042-480-2503
食・歩会：	山田 和子	042-488-0741

（今年後半の主な行事日程）

2013.8	納涼会（日時・場所未定）＊会員の方には別途連絡致します
2013.10.20	早稲田大学稲門祭　ホームカミングデー（於：早稲田大学）
2013.12.8	調布市福祉バザー（於：調布市役所前広場）
2014.2	新年会（日時・場所未定）

＜編集後記＞

今回も無事「紺碧」を発行することができました。お忙しい中、原稿を執筆してくださった皆様のおかげと感謝しております。この場を借りて、御礼申し上げます。

また、毎回のことですが、今回も石井宏和さんに素晴らしい写真をいただきました。原稿だけでなく、写真も随時募集しております。（吉田忠洋）

『紺碧』原稿受付Eメールアドレス： tadahiroyo@hotmail.com

＊サーバーのエラー等で、上記 hotmail アドレスへの送信が不可の場合、下記 gmail へお願い致します。
tadahiroyo@gmail.com

旭化成建材㈱指定工事店
外壁塗装・屋根塗装
株式会社住まいるスズキ
代表取締役 鈴木光孝
〒182-0023
東京都調布市染地三-五-六五
電話 〇一二〇-〇八〇-二四二

深大寺そば 創業文久年間
ご宴会・俳句会・御法事
元祖 嶋田家
住所 〒182-0017
東京都調布市深大寺元町五-十二-十
電話 〇四二-四八二-三五七八
FAX 〇四二-四九九-六六五五

桜田倶楽部
東京テニスカレッジ
会長 秋山一
昭和22政経卒
住所 〒182-0017
東京都調布市深大寺元町二-三二-一
電話 〇四二-四八二-二二〇九

農望レストラン
たづくり
調布市文化会館たづくり12F
東京都調布市小島町二-三三-一
電話 〇四二-四四一-一六一二
http://www.shinsengumi.com/

不動産賃貸
中村不動産管理株式会社
代表取締役 中村俊一
住所 〒182-0035
東京都調布市上石原一-一〇-一
電話 〇四二-四八二-二〇三三

早稲田大学商議員
早稲田大学調布稲門会
会長 元木勇
自宅 〒182-0003
調布市若葉町二-二二-一〇
電話 〇三-三三〇〇-四五五四（代）
FAX 〇三-三三〇〇-八七二八

新しい食文化を創る
株式会社山田屋本店
代表取締役社長 秋沢淳雄
住所 〒182-0024
東京都調布市布田三-一-一
電話 〇四二-四八二-四五八五
FAX 〇四二-四八二-四五七二

林建設株式会社
取締役社長 林清一
住所 〒182-8512
東京都調布市小島町二-五六-三
電話 〇四二-四八六-一一一一
FAX 〇四二-四八六-一一二〇